

1 (仮称) 滋賀県学校教育情報化推進計画 (素案)

2
3 1 計画策定にあたって

4 (1) 計画策定の趣旨

5 Society5.0¹ の到来により、これまでにない新たな価値の創造と展開が可能な時代
6 を迎つつあります。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、デジタル化を
7 含む社会の変化が加速しています。急速に変化する社会状況の中で、子どもたちは、
8 身近な事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的
9 に議論し、納得解を生み出すことなど、学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一
10 層強く求められています。

11 国においては、全ての児童生徒がその状況に応じて効果的に教育を受けることがで
12 きる環境を整備するため、国や地方公共団体等による学校教育の情報化の推進に関す
13 る事項を定めた「学校教育の情報化の推進に関する法律（令和元年法律第 47 号。以
14 下、「法」という。）」が令和元年（2019 年）6 月に公布・施行されました。

15 本県では、次代の社会を担う児童生徒の生きる力を育むため、学校教育の情報化の
16 推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため「滋賀県生きる力を育むための
17 学校教育の情報化の推進に関する条例（令和 4 年条例第 4 号。以下、「条例」という。）
18 が制定され、令和 4 年 4 月 1 日より施行されています。

19 本計画は、条例の基本理念を踏まえ、この変化の時代を生きる児童生徒一人ひとり
20 が豊かな人生を生き抜くために必要な力の育成に向け、本県の学校教育の情報化に関
21 する施策を総合的かつ計画的に実施するために策定するものです。

22
23 (2) 計画の位置づけ

24 本計画は、条例第 6 条に基づき、本県の学校教育の情報化の推進に関する施策を総
25 合的・計画的に推進するために策定するものです。

26 同時に、法第 9 条第 1 項に基づく本県の区域における学校教育の情報化の推進に関
27 する施策についての計画とします。

28
29 _____
30 ¹ サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、
31 経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会
32 （Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指
33 すもの。

1 (3) 計画の期間

2 本計画の期間は、技術革新のスピードが速い ICT²分野の特性を踏まえ、令和5年度
3 (2023年度) から令和7年度(2025年度)までの3年間とします。

4
5 (4) 計画の対象

6 本計画では、県が県立学校(高等学校、中高一貫校の中等部、特別支援学校)の学
7 校設置者の責務として実施する、学校教育の情報化の推進に関する方針・施策等に加
8 え、市町との連携・協力・支援ならびに研修や資質向上に係る支援に関する施策(大
9 津市を除く)、その他関係機関等との連携体制に関しても位置付けています。

10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32 _____
33 ² Information and Communication の略。情報通信技術
34

2 学校教育の情報化の現状と課題

(1) 児童生徒の資質・能力

- ・学校現場における1人1台端末を有効に活用するための環境整備や、コロナ禍でのオンライン学習の取組が進展する中、令和4年度全国学力・学習状況調査の「学習の中でPC・タブレットなどICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか。」という質問に対し、9割以上の児童生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答し、児童生徒のICT活用への関心や意欲が明らかになりました。今後は、児童生徒がICT端末を新たな学びのツールとして自由な発想で日常的に適切に活用できることが求められます。
- ・技術革新が進んでいく新たな時代において、児童生徒が情報を主体的に捉えながら、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用する情報活用能力³および確かな学力⁴の育成が不可欠です。
- ・不登校、病気療養、障害、日本語指導を要することなど特別な支援が必要な児童生徒であっても、誰もが自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人ひとりの可能性が最大限に引き出されるような教育の在り方が求められており、ICTの特性・強みを最大限に活用していくことが重要です。
- ・急速な社会のデジタル化が進む中、ICTの活用が日常的になるに従い、SNS⁵の利用等に伴うトラブルに巻き込まれたり、誤って他人の著作権を侵害してしまうなどの可能性があります。情報を正しく安全に利用するための情報モラルと必要な知識の習得に加え、デジタル社会の構成員の一人として、自ら判断し、責任ある行動ができる力が求められています。

³ 情報および情報手段を適切かつ効果的に活用する能力（条例第3条第1項1号）

⁴ 基礎的な知識および技能ならびにこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力ならびに主体的に学習に取り組む態度（条例第3条第1項1号）

⁵ ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイト等の会員制サービスのこと

1 (2) 教職員の指導力

2 ・GIGA スクール構想⁶により ICT 端末等の環境が急速に整備され、今後はより積極的
3 な利活用が重要な段階となっています。教職員研修の実施などにより、ICT 活用指
4 導力の向上を図っていますが、令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関
5 する調査において「授業に ICT を活用して指導できる教員の割合」は 69.7%、「情
6 報活用の基盤となる知識や態度について指導できる教員の割合」は 83.6%と全国
7 平均よりも低い状況であり、学校や個々の教職員の間で、ICT 活用の意義に対する
8 理解や取組状況にばらつきが生じています。

9
10 ・今後は、児童生徒の学習活動の状況等に関する情報を活用した個別最適な学びと情
11 報通信機器を使用した意見交換、発表等を活用した協働的な学びの一体的な充実、
12 対面による指導と遠隔授業等を融合した授業づくりなど ICT 環境を日常的に活用
13 した教科等の適切な指導を進めていくことが重要です。

14
15 ・スマートフォンや SNS が急速に普及し、その利用も低年齢化する中、トラブルに巻
16 き込まれてしまう、他人の著作物等を違法に利用してしまう、必要以上に長時間に
17 わたり使用してしまうなどの課題も発生しており、情報モラルや情報リテラシーの
18 指導に加え、児童生徒がデジタル社会の構成員の一人として、自ら判断し、責任あ
19 る行動ができるよう指導を進めていく必要があります。

21 (3) ICTの環境整備

22 ・GIGA スクール構想等により、学校における高速大容量通信ネットワークの整備が
23 進み、県内小中学校における1人1台端末の整備は令和3年度(2021年度)までに
24 完了するなど、学校の ICT 環境が急速に進展しました。

25
26 ・県立高等学校または特別支援学校高等部においても、義務教育段階において1人1
27 台端末環境で学んだ生徒が、高等学校等に進学しても切れ目なく同様の環境で学ぶ
28 ことができるよう、令和4年度(2022年度)からBYOD⁷方式による端末の整備を学
29 年進行で進めており、令和6年度(2024年度)までには全学年の1人1台端末環境
30 の整備が完了する予定です。

31
32 ⁶ Global and Innovation Gateway for All の略。

33 ⁷ Bring your own device の略。児童生徒が自身や家庭で保有する端末を学校に持参・利用する
34 こと。

1 ・今後、全ての児童生徒が、学校における ICT の活用を「日常的」なものとして活用
2 できるよう、各家庭の状況や児童生徒個人の多様な教育的ニーズへの配慮も踏まえ
3 て、適切な ICT 環境を整備していくことが求められています。また、デジタル教科
4 書やデジタル教材の活用がより一層進む中、多くの児童生徒が一斉に ICT 端末を利用
5 する場合のネットワーク需要等に対応していくことも必要です。

6
7 ・学校における児童生徒等の個人情報の適正な取扱いと情報セキュリティの確保に
8 向けては、「校務情報ネットワーク運用管理要領」および「県立学校における個人
9 情報の流出等の防止のための行動指針」等に基づき、安全の徹底確保を図っていま
10 すが、ICT 端末によるクラウドサービス⁸の利活用が進む中、より一層のセキュリ
11 ティ対策が求められています。

12 13 (4) 学校における働き方改革と組織・体制

14 ・教職員の長時間勤務を解消し、教職員が健康でいきいきと働くことができ、子ども
15 一人ひとりと向き合う時間を確保するため、ICT を有効に活用した校務の効率化な
16 どをより一層推進することが求められています。

17
18 ・GIGA スクール構想は教職員の働き方にとっても有効であると考えられますが、ICT
19 担当教職員に負担が集中するといった課題も生じているため、特定の職員の負担を
20 解消する取組が必要です。

21
22 ・GIGA スクール構想による ICT 端末の調達や新型コロナウイルス感染症における端
23 末の持ち帰りなど、全ての教育委員会が課題に直面する中、ICT に関する知見の共
24 有と対応の連携を図るため、県と各市町との連携会議や学校訪問全を通じて情報共
25 有を図っています。今後、ICT 利活用による授業改善や校務効率化を本格化させる
26 段階に移行していく中で、関係機関等による更なる連携が求められています。

27
28
29 _____
30 ⁸ 利用者側が最低限の環境（パーソナルコンピュータや携帯情報端末などのクライアント、その
31 上で動く Web ブラウザ、インターネット接続環境など）をインターネットなどのネットワーク経
32 由で利用するサービスの総称。

1 3 基本方針

目的：次代の社会を担う児童生徒の生きる力を育む学びの実現

Society5.0の到来により、さらに技術革新が進んでいく新たな時代において、児童生徒が情報を主体的に捉えながら、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、他者と協働し新たな価値を創造する社会に貢献できるよう、次に掲げる4つの方針を設定し、これらの方針に沿った具体的な施策を計画的かつ総合的に推進します。

2

3 【施策の柱】

4 (1) ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

5 ・児童生徒の学習活動の状況等に関する情報を活用した個別最適な学びと情報通信
6 機器を使用した意見交換、発表等を活用した協働的な学びを一体的に充実し、対面
7 による指導と遠隔授業等を融合した授業づくりその他の情報通信技術を日常的に
8 活用した教科等の指導を適切に行い情報活用能力および確かな学力の育成に努め
9 ます。

10

11 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るため、デジタル教材を活用し
12 て一人ひとりの学びの状況に応じた課題を提供することや、意見交流やプレゼンテ
13 ーションに1人1台端末の効果的な活用を推進します。

14

15 ・1人1台端末を家庭においても学習に利用することができるよう、動画や音声デー
16 タを使用した課題や、AI⁹ドリル等のデジタル教材を活用した家庭学習を推進しま
17 す。

18

19 ・すべての児童生徒が、その家庭の経済的な状況、居住する地域、障害の有無等にか
20 かわらず、ICTの特性を最大限に活用し、誰一人取り残されず、一人ひとりの才能
21 を伸ばすための学びの機会の提供を図ります。

22

23

24

25 ⁹ Artificial Intelligence の略。学習や推論、判断等の機能を備えたシステム。人工知能。

26

27

1 ・児童生徒が、自己または他人の権利を尊重し、情報化社会での行動に責任を持つと
2 とともに、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用するため情報モラ
3 ル¹⁰の向上に努めます。

4
5 ・児童生徒が、デジタル社会の構成員の一人として、情報を活用し、社会や個人の課
6 題を解決する力の習得に努めます。また、ICT機器を使用することによる児童生徒
7 の健康面への影響についても配慮します。

9 (2) 教職員のICT活用指導力の向上

10 ・学習指導要領を着実に実施し、学校教育の質の向上につなげるため、各学校におけ
11 るカリキュラム・マネジメントの充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた
12 授業改善に対応できるよう実際の授業を想定した主体的な研修の充実など ICT 活
13 用指導力の向上を図ります。

14
15 ・各学校において、生徒の発達の段階を考慮しながら情報活用能力の育成を図るため
16 ICTを活用した学習活動を充実させます。具体的には、対面授業でICTを活用する
17 ことにより、学習履歴(スタディ・ログ)を蓄積・分析・利活用した個別最適な学
18 びの実践や、対面授業とオンライン授業を併用したハイブリット授業の研究を推進
19 します。

21 (3) ICTを活用するための環境の整備

22 ・全ての児童生徒が、学校におけるICTの活用を「当たり前」「日常的」なものとし、
23 その家庭の経済的な状況、居住する地域、障害の有無等にかかわらず、ICTの利点
24 を共有することができるよう学校のICT環境整備を進めます。

25
26 ・1人1台端末によるクラウドサービスの利活用が進む中、全ての児童生徒が安全に
27 ICTを活用できるよう、児童生徒等の個人情報の適正な取扱と情報セキュリティの
28 確保を図ります。

31
32 ¹⁰ 人間が情報を用いた社会形成に必要とされる一般的な行動の規範。情報社会で適正な活動を行
33 うための基になる考え方と態度。

1 ・ICTの効果的な活用により、遠隔授業や授業配信など新たな授業形態の研究を進め
2 るとともに、不登校・長期入院等の生徒を含めた多様な生徒を誰一人取り残すこと
3 のない学びの実現に向けた環境構築を進めます。

4
5 ・学校間でのオンライン授業などの実施により、学校での学びに留まらないつながり
6 の創出も期待されます。ICT化が進む学校における協働性、社会性等の育成研究や
7 取組事例について、県全体での共有を図ります。

9 (4) ICT推進体制の整備と人材の確保

10 ・児童生徒の成長段階において切れ目ない教育を確保していくため、市町をはじめと
11 する多様な関係機関等との広域的な連携体制を確保していきます。

12
13 ・ICTを活用した校務の改善により、教職員の長時間勤務を解消し、子ども一人ひと
14 りと向き合う時間を確保することによる教育の質の向上を図ります。また、ICT教
15 育担当の教職員への負担が過度に集中しないよう、組織的な支援体制の強化や各学
16 校の情報担当者の連携などを進めます。

17
18 ・教職員の支援や学校教育の効率化を図るため、ICT教育のサポート体制づくりを進
19 めます。

1 4 学校教育の情報化に関する目標

2

指標	現状値	目標値
前年度に教員が ICT 機器を活用した授業の割合 (1 クラス当たり週 3 回以上行った割合)	小 88.6% 中 91.0% 高 未実施 特 未実施 (2022 年度)	小 100.0% 中 100.0% 高 100.0% 高 100.0% (2025 年度)
授業に ICT を活用して指導できる教員の割合 (できる・ややできると回答した教員の割合)	小 74.4% 中 69.5% 高 65.4% 特 58.9% (2021 年度)	小 90.0% 中 90.0% 高 90.0% 特 80.0% (2025 年度)
情報活用の基盤となる知識や態度について指導 できる教員の割合。 (できる・ややできると回答した教員の割合)	小 88.3% 中 82.8% 高 82.5% 特 67.9% (2021 年度)	小 95.0% 中 95.0% 高 95.0% 特 90.0% (2025 年度)

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

5 計画的に講ずべき施策

(1) ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

① ICTを主体的に活用できる態度の育成

〔取組の方向性〕

- ・学習の効果を高めるため、ICTを授業における多様な場面に取り入れ、目的に応じて適切に活用し、よりわかりやすく理解が深まる授業づくりを推進します。また、各教科等のねらいに応じて、学習活動の中にICTを効果的に活用する場面を取り入れ、授業改善を進めながら子どもたちの情報活用能力の育成を図ります。
- ・令和6年度（2024年度）から本格的な導入が予定される学習者用デジタル教科書について、国の実証事業への参加等を通じて、紙の教科書とデジタル教科書を最適に組み合わせた学習を検討します。
- ・新たな価値を創造するデータサイエンス¹¹能力の育成を図ることで「情報を解析する力」「情報の処理手法を構想する力」「情報を表現する力」を養います。
- ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、デジタル社会に主体的に参画するための資質・能力を育みます。

〔主な取組〕

- ・日常的な1人1台端末の活用を図るための仕掛けと工夫
- ・各教科が目指す資質・能力の育成に向けた適切な場面でのICT活用
- ・デジタル教科書やデジタル教材を活用することで多様な学習を推進
- ・児童生徒が端末を用いてプレゼンテーションする機会の確保
- ・デジタル技術とデータを活用できるデータサイエンス能力の育成

¹¹ データを用いて新たな科学のおよび社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチのことで、データを扱う手法である情報科学、統計学、アルゴリズムなどを横断的に扱う。

1 ②情報モラル教育の充実

2 〔取組の方向性〕

- 3 ・児童生徒が情報に対する責任ある考えや行動をしようとする態度などを身に付
4 け、安全・安心に情報を利活用していくことができるよう、情報モラルに関する
5 指導を進めます。
- 6
- 7 ・デジタル社会の構成員の一人として、自ら判断し、責任ある行動ができる力、更
8 には、自らの意思で積極的にデジタル社会と関わっていく能力とスキルを身に付
9 けることができるよう「デジタル・シティズンシップ¹²」の観点を踏まえた情報
10 活用能力の育成を図ります。
- 11
- 12 ・スマートフォン等を用いて誰もが動画等の創作を行うような状況になったこと
13 を踏まえ、児童生徒が著作権や肖像権および知的財産権等に関する正しい知識を
14 持ち、高い意識を持って情報を扱えるよう指導を進めます。
- 15
- 16 ・姿勢や視力低下などの健康面に留意したタブレット端末などの利用について啓
17 発・指導を行います。

18 〔主な取組〕

- 19
- 20 ・学校における児童生徒への情報モラル研修等の実施
- 21 ・情報社会に参画する態度の育成を目指す情報モラル教育の推進
- 22 ・デジタル・シティズンシップの観点をふまえた情報活用能力の育成
- 23 ・著作権や知的財産権など情報社会で必要となる関連法規の正しい理解の涵養
- 24 ・健康に留意したタブレット端末等の利用についての啓発・指導
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30

31

32 ¹² 情報技術の利用に関する適切で責任ある情報規範。デジタル技術の利用を通じて、社会に積
33 極的に関与し、参加する能力のこと。

③特別な配慮を要する児童生徒の利活用

〔取組の方向性〕

- ・不登校、病気療養、障害、日本語指導を要することなど特別な支援が必要な児童生徒に対し、遠隔教育をはじめとする ICT の活用により、均等に学ぶ機会を保障します。加えて、学びの困難さを軽減するとともに、能力を引き出すことにより、学びの楽しさを実感できるよう、有効活用できるアプリケーションの活用などにより、指導の効果を高めます。

〔主な取組〕

- ・個に応じた学習に有効活用できるアプリケーションの充実・活用
- ・長期入院等に関わるタブレット端末やネットワーク接続環境の整備
- ・多様な教育ニーズに応えるための遠隔教育に必要な関係機関との連携

④プログラミング的思考の育成

〔取組の方向性〕

- ・学習指導要領に基づき、発達段階に応じたプログラミング教育を行います。
- ・プログラミングの流れや、プログラムの基本構造、アルゴリズムなどを体系的・系統的に学習することで、プログラミング的思考や論理的思考力、創造性などを養います。

〔主な取組〕

- ・校種間での連携を図り発達段階に応じた系統的なプログラミング学習を実現
- ・キャリア教育の観点を踏まえた高校生による小学生へのプログラミング教室

(2) 教職員の ICT 活用指導力の向上

①情報通信技術を活用した指導方法等の普及

〔取組の方向性〕

- ・教職員が授業内容や児童生徒の実態に応じて、ICT を活用した教育活動をあらゆる学習場面において、自在に行えるような姿を目指し、学校訪問型の研修の実施やオンライン研修など研修の機会を増やすとともに、研修内容の充実を図ります。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資するよう、ICT 活用実践事例の作成や優良事例の周知を図るとともに、新たに ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の研究および指導方法の普及を進めます。

1 ・教職員の指導力・活用力向上のためノウハウを蓄積し、必要な情報をいつでも入
2 手できる環境を構築します。

3
4 ・ICT機器を活用した教科指導のモデルとなる授業づくりの研究を進めるとともに、
5 公開授業などを通して、その研究成果の普及を図ります。

6 7 **〔主な取組〕**

8 ・教科指導など教育活動の各場面で参考となる ICT 活用ガイドブックの作成

9 ・ポータルサイトにおいて動画コンテンツによる教科別活用事例の紹介

10 ・総合教育センターにおける専門研修やステージ研修の充実

11 ・ICT コアティーチャーの教科指導における効果的な活用方法の普及

12 ・実践事例の収集と優良事例を様々な機会を捉えて周知

13 ・指導用デジタル教科書の長所を活かした授業力の向上

14 15 **②学校の教職員の資質の向上のための研修の実施**

16 **〔取組の方向性〕**

17 ・教職員が、児童生徒にデジタル社会の構成員の一人として、自ら判断し、責任あ
18 る行動ができるよう、情報モラルや情報セキュリティ、著作権への理解、さら
19 はデジタル・シティズンシップの視点などを踏まえた指導力向上の研修の充実
20 を図ります。

21
22 ・教職員が校務や学習の教育データを活用し、指導が必要な児童生徒の早期発見や、
23 児童生徒の特性・能力に応じた学習支援など、指導の改善につなげるためのデー
24 タサイエンスに関する研修に参加することにより、教育データの利活用の推進を
25 図ります。

26 27 **〔主な取組〕**

28 ・情報社会に参画する態度の育成に資する情報モラル、情報セキュリティなどの教
29 職員の資質向上のための研修の実施

30 ・データを科学的に分析し、教育の質の向上を図るための情報・教育データの利活
31 用（データサイエンス）の研修の実施

32 ・プログラミング的思考の指導や論理的思考力の育成に資する研修の実施

33 ・著作権や知的財産権など情報社会で必要となる関連法規の正しい理解の促進に
34 向けた研修の実施

③調査研究等の推進

〔取組の方向性〕

- ・今後、本格的に導入が進むデジタル教科書やデジタル教材の効果的な活用方法の研究を進めるとともに、具体的な指導に係る教育手法が確立されていないデジタル・シティズンシップ教育の研究を進め、その研究成果の普及を進めます。

〔主な取組〕

- ・デジタル教科書の長所を活かした効果的な指導方法の研究
- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」に有効なアプリケーションソフトについての研究
- ・発達段階に応じたデジタル・シティズンシップの観点を踏まえた教育の研究

(3) ICTを活用するための環境の整備

①県立学校における情報通信技術の活用のための環境整備

〔取組の方向性〕

- ・県立学校の通信環境については、1人1台端末の利用が進むため、一斉に接続しても円滑な回線速度を保ち、安定的に授業等に活用できるネットワーク環境を確保するとともにネットワーク需要に対応した環境整備を進めます。
- ・障害のある児童生徒が学習上又は生活上の困難を改善・克服し、可能な限り障害のない児童生徒と共に教育を受けることができるよう、ICT環境の整備を進めます。
- ・経済的状況等により ICT 端末や家庭での通信環境の確保が難しい家庭に対しては、貸与用の端末やモバイルルーター等を確保することにより、学びのセーフティネットを維持していきます。

〔主な取組〕

- ・県立学校における円滑な教育活動に必要な通信環境の運用および整備
- ・県立学校における無線 LAN アクセスポイントの整備
- ・県立学校における ICT 機器の更新・整備
- ・特別支援学校における入出力支援装置の更新・整備
- ・特別支援学校における在籍校以外の学校との通信環境の整備
- ・BYOD による端末整備に伴う経済的に困りご家庭の生徒に対する支援

1 ②学習の継続的な支援のための体制の整備

2 [取組の方向性]

- 3 ・児童生徒の学習の状況等に関する情報を蓄積、分析、活用し、学校間および学校
4 教の教職員間で適切に共有するために必要な環境および体制の整備を進めます。
5 ・学校間でのオンライン授業などの実施により、学校での学びに留まらないつな
6 ぎの創出も期待されます。ICT 化が進む学校における協働性、社会性等の育成研
7 究や取組事例について、県全体での共有を図ります。

8
9 [主な取組]

- 10 ・一人一台端末の活用を支える授業用支援¹³ソフトの運用・管理
11 ・教育資源の有効活用を視野に入れた遠隔授業に係る実証研究
12 ・特別支援学校と市町立学校の連携に伴う ICT 活用の推進

13
14 ③個人情報の保護

15 [取組の方向性]

- 16 ・1人1台端末環境におけるクラウドの日常的な活用や、利用するネットワーク・
17 場所にとらわれないセキュリティ対策の実施とともに、個人情報の保護に十分
18 配慮しながら、教職員および児童生徒が安心して学校で ICT を活用できる環境
19 の整備を促進します。

20
21 [主な取組]

- 22 ・新たな学校教育セキュリティポリシーの策定
23 ・教職員が教育活動で必要となる情報セキュリティに関する研修
24 ・滋賀県警と連携したサイバー・セキュリティ教育の実施

25
26 (4) ICT 推進体制の整備と人材の確保

27 ① ICT 推進体制の整備

28 [取組の方向性]

- 29 ・ICT を活用した学びを推進するため大学や ICT 関連企業との連携を進めるととも
30 に市町との連携協力を推進します。

31
32 _____
33 ¹³ タブレットやパソコンなどの IT 端末を利用した教育の質を高め、効果的に行うためのソフト
34 ウェア

- 1 ・教育の情報化の推進を図るため、活用事例や教材、研修コンテンツなどのデジタル
2 資源をポータルサイトに集約することで利便性の向上を目指します。

3
4 **〔主な取組〕**

- 5 ・必要な情報が一元化された教育の情報化推進ポータルサイトの構築
6 ・大学・ICT関連企業等の連携
7 ・市町教育委員会との協力・連携

8
9 **②人材の確保**

10 **〔取組の方向性〕**

- 11 ・教職員が、ICTや情報・教育データの利活用するために必要な資質を向上させる
12 ことができるよう、大学・教職大学院との連携を図ります。
- 13
- 14 ・共通必修科目として「情報Ⅰ」が新設されるなど、教育におけるICT活用の重要
15 性が高まっているため、ICTの活用推進のため情報通信技術を有する人材の確保
16 を図ります。
- 17
- 18 ・学校現場におけるICT機器、ソフトウェア、ネットワークの設定やトラブル対応
19 などについて、1人1台端末導入後のトラブル対応例や知見を元に、効果的な技
20 術支援を行います。

21
22 **〔主な取組〕**

- 23 ・教職員の教職大学院への派遣や教職員研修講座の活用を推進
24 ・「情報」免許を保有する教職員の確保
25 ・AIチャットボット¹⁴などの情報支援サービスを活用した教職員への支援

26
27 **③ICTを活用した校務の改善**

28 **〔取組の方向性〕**

- 29 ・統合型校務支援システムをはじめとして校務の情報化により、書類作成や情報共
30 有、採点・集計作業などについて効率化を進めるとともに、児童生徒一人ひとり
31 の状況を多面的に把握した指導や支援を進めます。

32
33 _____
34 ¹⁴ 人工知能を活用した「自動会話プログラム」のこと。

1 ・採点支援システムにより、採点業務の効率化を図るとともに、結果をデータとし
2 て把握することにより、きめ細かな指導に反映させるなど教育の質の向上を図り
3 ます。

4

5 **〔主な取組〕**

- 6 ・情報の一元化による校務の効率化に資する統合型校務支援システムの運用
- 7 ・採点業務の効率化と正答データの分析が可能となる県立学校への採点支援シス
8 テムの導入
- 9 ・学校横断による教材の共有化

10

11 **④県民の理解と関心の増進**

12 **〔取組の方向性〕**

- 13 ・保護者をはじめとして広く県民の理解と関心を高め、学校設置者、学校、保護者
14 等の関係者が ICT 利活用の方針や使用ルールについて共通理解を図れる取組を
15 進めます。

16

17 **〔主な取組〕**

- 18 ・「教育しが」への掲載をはじめとする広報の充実
- 19 ・学校、保護者、市町等との連携によるインターネット利用に関する家庭教育学習
20 講座の開催

21

22

23

24

25